

# 「こおりやまの米」通信

令和6年3月

編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター

(Tel. 024-921-0503)

NOSAI福島中央支所

(Tel. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部

(Tel. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課

Tel. 024-924-3761)



GOOD RICE DAY  
毎月8日は  
こおりやま「お米の日」



## Vol.1 播種準備編(種子の準備～播種)

\*最新および過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索



### 1 播種の準備

#### 1 作業場等の清掃

いもち病やばか苗病の菌は、わらや籾殻等に潜んでいます。播種作業を行う前に作業場や育苗ハウス内の清掃を行い、感染を防止してください。

また、前年の育苗期間中に苗立枯病(カビ)が発生した場合は、育苗箱や育苗床のビニールの消毒、または更新等の対策をしてください。

#### 2 塩水選(比重選)

塩水選を行うことで、充実した良質の種子を選ぶことができます。そのため、塩水選は必ず行ってください。

塩水選後は、発芽障害を防ぐため軽く水洗いし、塩分を取り除いてから浸種してください。

塩水の作り方[水10%当たり] ※



種類	比重	食塩(kg)	硫酸(kg)
うるち	1.13	2.1	2.7
もち	1.10	1.6	2.0

※食塩または硫酸のどちらかを使用します。比重は水温や吸湿程度によって変動するため、比重計で測るのが原則です。

### 2 種子消毒

未消毒の種子を購入、または自家採種した場合は、塩水選後に化学農薬、生物農薬や温湯での処理を実施してください。(毎年種子更新が基本です。)

#### 1 化学農薬

種子消毒剤(モミガードC水和剤、テクリードCフロアブルなど細菌病・苗立枯病に登録のある剤)を規定量用いた薬液の中で種籾袋をよく揺すり、内部まで薬剤を均一に付着させます。特に銅を含む薬剤は沈殿が発生するため、浸漬中に薬液を1～2回攪拌してください。

#### 2 温湯消毒

取扱い説明書に従い湯温と処理時間を設定し、1回当たりの処理量を守るようにしてください。

### 3 浸種 ～十分な「吸水」と「酸素」がポイント～

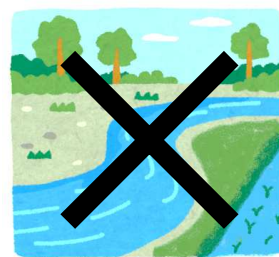
1 浸種水温は12～15℃を目安とします。浸種期間中の気温が高く経過すると予想されているので、涼しい浸種場所を選んだり、遮光を実施する等について検討してください。なお、10℃以下での浸種は、発芽不揃いや種子消毒剤の効果が低下する原因となります。

浸種期間は積算水温(平均水温×日数)で100℃が目安です。令和5年産種子は昨年的高温により休眠が平年より深いと想定されるので、コシヒカリやひとめぼれ等の休眠の深い品種は120℃程度を目標にしてください。

2 種籾袋には、余裕をもって八分目以下に種子を詰めます。ぎっしり詰めると中心部が酸素不足となり、発芽が不揃いとなります。

3 種子消毒剤の効果は、浸種時に種籾の微細な隙間まで薬液に浸漬されることにより発揮されるため、浸種開始から2～3日間は水を交換しないようにします。その後は、酸素供給のため1～2日の間隔で水を交換してください。

河川やため池での消毒種子の浸種は、消毒の効果がなくなるだけでなく、発芽の不揃いや環境汚染にもつながりますので、絶対にやめてください！



#### 【野焼き等による火災の防止】

野焼き等による火災を起こさないよう、野焼き等のルールや注意事項を確認し、地域ぐるみで火災予防に努めて下さい。

#### 【育苗ハウスでの農薬の使用】

水稻育苗後のハウスで野菜等を栽培する場合、育苗時に使用した薬剤による残留汚染の危険性があるため、育苗開始前にハウス内に不透水性無孔シートを敷き詰め、育苗に使用した薬剤が土壌に流出しないよう対策を取ってください。農薬の使用時は、ラベルを確認し使用法を守ってください。

## 4 播種

～適正な播種量で健苗を確保してください～

### 1 播種量と育苗日数の目安(表1)

適正な播種量とすることで健苗が得られ、活着と初期生育が良くなります。老化苗とならないよう、田植え日から逆算して播種日と播種量を決定してください。

ふくひびきは、疎植や植え付け本数が少ないと減収しやすいので、十分な苗を確保してください。

### 2 播種

播種前に空の育苗箱を使って播種量や箱施用剤の落下量を調整してください。播きムラがあると移植時の欠株の原因となるので注意してください。

### 3 病害防除(表2)

販売されている培土は焼土殺菌されていますが、播種後の立枯病菌及び細菌の侵入に対しては薬剤を使用し予防する必要があります。予防のために、播種当日に防除を実施してください。

### 4 温度管理

もみ枯細菌病等の予防のために、育苗器の設定温度は28℃にしてください。

緑化から第1葉展開までは日中25℃、夜間10～15℃、以降は日中20℃、夜間10～15℃を目標に管理してください。



表1 播種量と育苗日数

苗種	播種量 (乾籾重/箱)	育苗日数	葉齢
稚苗	200g	20～25日	2.0～2.9
中苗	100g	30～35日	3.0～3.9

表2 育苗期の主要な病害と対応する農薬例

病名 病原菌	症状	発生条件	カスミン 粒剤	ナエファイン フロアブル	ダコニール 1000	ダコレート 水和剤	タチガレエ ースM液剤
細菌	もみ枯細菌病	坪状に枯れあがり、 心葉が容易に抜ける	高温多湿 高pH(6.0以上)	○			
細菌	苗立枯細菌病	坪状に枯れあがり、 基部が白化する	高温 苗の生育不順	○			
菌	リゾープス	白いカビ	高温多湿 多窒素・厚播き		○	○	○
菌	フザリウム	白からピンクのカビ	低温過湿 高pH(5.5以上)		○		○
菌	ピシウム	ドーナツ状に枯れる カビは見えない	低温過湿 高pH(5.5以上)		○		○
菌	トリコデルマ	白から緑のカビ	高温多湿 低pH(4.0以下)			○	

## 5 育苗ハウスでの平置出芽

出芽時の目標温度28℃をできる限り維持するため、こまめなハウスの開閉や、保温資材、遮光資材の活用に務めてください。

適切な温度管理のため、温度計を苗と同じ高さの位置に設置し、こまめに確認するようにしてください。

使用2年目以降のアルミ蒸着シートのはく離は、部分的な高温障害の発生要因になるので、はく離がないことを確認した後に使用するようにしてください。

また、アルミ蒸着シートの温度抑制効果を過剰に期待せず、ハウス内温度が上昇した場合は、ハウスの開閉を行うようにしてください。

### 【需要に応じた米の生産をお願いします】

令和6年産米の価格安定のため、引き続き、主食用米以外への大規模な転換が必要です。

転換作物は、主食用米と同様に作付けできる備蓄米や飼料用米、所得が確保できるきゅうり等の園芸品目がおすすめです。令和6年産の飼料用米の助成金は、天のつぶ等の主食用品種を栽培した場合は助成単価が減額されるので、ふくひびき、まいひめ等の飼料用の多収品種による取組を御検討ください。

### 【農作業事故に注意】

毎年農作業中の事故により農業者がお亡くなりになっています。その多くがトラクター操作中の転倒や転落によるものです。トラクター操作時はシートベルトを装着し、道路走行時は左右ブレーキを連結してください。

特に春は、水稻の作業で慌ただしく、事故の発生が多い時期です。余裕のある作業計画を立てるとともに、作業中も定期的に休憩をとるように心がけてください。